

平成27年度善誘館小学校外部評価書

平成28年3月 4日作成

学校関係者評価委員会

実施日：平成28年2月23日（火）午後4時20分から5時

会場：善誘館小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員

加賀美研一（学校評議員）・木口正徳（学校評議員）

小倉正夫（学校評議員）・林 昌明（学校評議員）

高原幹夫（琢美地区連合自治会長）

内藤久芳（富士川地区連合自治会長）

田中聡頭（PTA会長）・村松博美（PTA副会長）

学校側

川口ますみ（学校長）・上田雅也（教頭）・大勝まゆみ（教務主任）

1 学校側からの説明

・自己評価結果についての説明（教頭）

「善誘館小学校自己評価書」及び「善誘館小学校自己評価・児童用アンケート・保護者用アンケート分析結果」に基づく説明

2 協議（議長：田中PTA会長）

自己評価書から受ける善誘館小学校の実態（本年度の重点目標への取組についての特徴、要望等）

①「よりよい人間関係づくり」について

- ・思ったより素晴らしい内容で良かった。HP、ブログなどの情報メディアを利用した形で学校が少人数指導のきめ細かな加配などを受けて先進的な取り組みなどを行っていることについてもアピールした方がよいのではないか。
- ・学校と地域がとても協力的で一体となって子どもの教育をよりよくすることに取り組んでいる地域である。
- ・富士川、琢美が一緒になって5年目になるが、子供たちもどちら地域の行事にも分け隔てなく参加することができている。その意味では、砂田地区のお祭りなども広く参加していくことも必要である。
- ・挨拶については、アンケート結果よりも感触としてはまだまだの部分もある。
- ・地域、保護者を含めて率先して挨拶を行っていることが大切である。
- ・教師側も見本を見せていく形で進めていきたい。
- ・登下校の旗振りで行っているとき集団で通る高学年の男子は、はずかしくてあいさつをしてくれないが、個別に行き会ったときはよくあいさつをしてくれる。挨拶は、社会人になっても基本的にできなければならないことであることを確実に定着させていくことが必要である。
- ・1年生が朝も帰りも自主的に職員室に挨拶に来ているのはとても良い取り組みである。高学年になっても続けていけるかどうかに興味深い。
- ・校長が毎朝正門で全校児童に会っているのもそのときの様子を見たり、各担任に普段の様子を聞いたりして判断している。
- ・アンケート結果から見ると、子どもたちは「している」と思い、教師や保護者は「今一歩」と感じている。認識のずれはあるものの、「大きな声で元気よく」「相手の目を見て笑顔で」などのことを意識させながら、大人の方が根気強くしていく必要があるのではないか。

②「言語活動の充実」について

- ・学力を向上させるために「読む、書く、話す、聞く」各領域の力を学年に応じて伸ばし、各教科の学習に生かすため、教師全体で研究をしている。
- ・学年の応じて言語活動の場の設定にも工夫をしている。子供たちのアンケート結果でも出ており学年が進むにつれて全体場で発言をすることを苦手だと感じる子供もいる。そこで話し

合いの形態に小集団での話し合いの場面を設けたり、ティームティーチングで疑問や質問のある児童にきめ細かく対応することで本人が自信を持って発言できるようにしている。

- ・各学年共通して「書く」では授業の終わりに学習感想を書いたり、今日授業で学んだことを書いたり、友達の見解で気づいたことなどを書いたりして振り返りを行っている。このことにより児童の学びが主体的になっている。教師が一方的に教え込むのではなく、児童自らが振り返ることで学びを自分のものになっている。
- ・ノート指導の場面では、各学級で学習コーナーなどを設けて上手に記述できているノートを掲示したり、論理的に書く指導を行った後の個々の課題解決で記述の仕方がよいものを他学級で紹介して参考にする活動を行っている。
- ・「読む」活動では、本校の特色の人となっている地域や保護者の方々による読み聞かせの活動や朝のさわやか読書の活動など本に触れる活動を多くすることを試みている。本年度も子供たちの読書環境を豊かにすることに役立っている。また、今年度は、市立図書館職員の方をお招きして則諸指導を行っていただく。今年度に入って新しく取り入れた取り組みもある。
- ・文字を抵抗なく読めることが大切。その意味で本校の読書活動や読み聞かせは、学力の点数には現れていないかもしれないが、非常に役立っているのではないかと考える。
- ・「好きこそもの上手なり」ということもあるが、やり続けていくうちにだんだんよさがわかっていくこともある。
- ・教師や保護者がおもしろいと思ったものは、子どもたちも興味関心をもってくれるのではないかと考える。
- ・テレビで知ってから、そのことについてもう一度本を読んでみるのもよいのではないかと考える。

③「たくましい体づくり」について

- ・大人が過保護にしすぎの部分もある。しつけについては、隣のおじさんのような存在がいてどの子にも良いことと悪いことの区別について指導する風習があった。
- ・子供たちのチャレンジ精神も少なくなっている。一度失敗したことをすぐに諦めてしまう傾向もある。
- ・悪いこともやっただ中で良いことを理解できるということもある。人間性が高まり、自分の力を更に伸ばしていくという心を育てていくためには、どういう教育をしていくことが大切なのかを考えていく必要もある。
- ・保護者の中に危険を排除する考え方やゲームなどで例え相手を倒したとしても簡単に生き返ることなど子供たちの感覚の中にも暴力や危険や身を守るあるいは相手を傷つけると言うことに対する感覚が鈍っている部分も良い影響を与えていないのではないかと考える。
- ・子供たちの危機意識を高めるための話し合いを設けるような機会や指導を行ってほしい。
- ・子どもたちに判断させ、間違っていたらその場で指導することが大切ではないかと考える。
- ・防災訓練でも今まではマニュアルに従って教師から順次指示を出していたが、その考え方を見直している。そのときの状況に合わせて判断できる能力を今後は育てていきたい。
- ・実際下校時には、子どもたちが自分で判断しなければならないことも多い。
- ・放課後や土日、休日は自分の判断で行動している。
- ・親子で学校の通学路を一緒に歩く機会を増やすことも考えている。親子で歩くことで自分の子供の通学路の危険箇所について知ることなどもできる。また、実態に合った避難について考えることもできると考える。各家庭の実態に合った災害時の避難の仕方について考えてもらうことも必要だと考えている。
- ・ハンカチやはながみを持っていない低学年が多いことについては、最近ポケットのない服があるため身につけることができず、カバンに入れている子もいるのではないかと考える。

④その他

- ・アレルギーのある子供について給食で食べられないものがあり、お弁当を持たせている家庭がある。他の子供たちが温かいものを食べているときに温かいものは温かく食べさせてあげられないかと考える。

- ・職員室にレンジがあるので各家庭に回り、温めを希望する家庭については、職員室にいる職員が温めるように考慮していく。
- ・高学年になるとなかなか担任にも相談をしづらい子供も増えてくる。少しでも相談しやすい環境を整えてあげてほしい。
- ・今年度も SOS ボックスの取り組み等を行っている。更に、今年度からスクールカウンセラーを県教委等の御配慮で配置していただいている。今後も周知徹底していく中で子供たちの心のケアに努めていくようにしていきたい。

報告書作成責任者 田中 聡顕 (PTA会長)